

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 188

2006年

1～2月号

## 明けましておめでとうございます

会長 問野 吉幸

会員の皆様には、清々しいお正月を迎えられお喜び申し上げます。

我孫子野鳥を守る会は、昨年(2005)の11月26日に我孫子市制施行35周年記念の市政功労者賞(環境功労)を受賞しました。これは、会員の皆様の日頃の野鳥観察等を通じての諸活動が地域社会、特に環境保全にも役立っていると認められたことと思います。この受賞を皆様とともに喜びたいと思います。

また昨年(2005)の正月は、我孫子市北新田のコウノトリで沸きました。北新田のコウノトリの我孫子での最初の発見者は当会の会員でもあり、その後においてもコウノトリが当地を離れるまで毎日観察を続け、立派な記録を残されております。このような会員一人ひとりの活動が当会の力であります。

今年はどんなことが起こるのでしょうか。首都圏のあっちこっちでカモの減少が叫ばれています。この正月はカモの群れが大挙手賀沼に戻って来たという夢を見たいと思います。

昨年(2005)の新年のご挨拶で木村前会長が述べられておりました兵庫県豊岡市のコウノトリが、昨年(2005)の9月野生復帰に向けて5羽放鳥され、全国的な関心が持たれております。これは「人と自然が共生する地域づくり」を進めてきた豊岡市と地元住民の方々のたゆまぬ努力が、コウノトリが棲める環境に少しずつなってきたことと思われまふ。このような環境が全国に広がればいいなどの夢を持っております。

会員の皆さんの楽しくされている毎日の探鳥活動が、当会の基本であり財産であります。会員の皆様から報告された鳥情報は、手賀沼を中心とした地域の鳥の生息状況を知る上で大変貴重なデータとなっております。これらの情報を元に作られた手賀沼の鳥、そこで報告された後の手賀沼の水鳥の状況は、更に深刻な事態になっております。

手賀沼の鳥では、2002年まで報告しましたが、その後2003年、2004年と減少を続けております。1977年を100とすると2002年は50、2004年が34にまで減少しました。2005年も更に前年を下回っております。またこの減少傾向は手賀沼だけにとどまらないとも言われております。私が時々行く印旛沼の野鳥の数も少なく感じております。

バードウォッチャーにとって地元での野鳥の減少は悲しいことです。昔のように手賀沼とその周辺が野鳥で溢れる地域にならないかと願っております。そのためには、野鳥を理解する仲間を沢山作る必要があると考え、昨年は啓蒙活動に力を入れ始めました。5月の里山シンポジウム、7月の手賀沼学会、10月の手賀沼流域フォーラムでは、手賀沼の水鳥の減少の実態をパネル展示と説明で訴えました。

11月の第5回ジャパン・バード・フェスティバル(JBF)では、親水広場会場で「定点バードウォッチング」、「船上バードウォッチング」を行い市民の方に探鳥の楽しみを体験していただきました。手賀沼公園では、恒例の「庭に鳥を呼ぶ」で50種に上る実のついた植物を展示、手賀沼の水鳥の減少の実態を説明したパネル展示、自作紙芝居の上演と野鳥クイズを実施しました。女性陣の大活躍で新しい試みの紙芝居と野鳥クイズは大変好評でした。紙芝居を見た人のクイズの正解率が高かったことは、紙芝居が啓蒙活動に有効であったこと

を示していると思いました。JBFでは会員の皆様のご協力があり、大成功であったと思います。改めて感謝とお礼を申し上げたいと思います。

また11月は、我孫子市環境レンジャー主催の公開講座で「手賀沼周辺の鳥たちの現状」-30年以上の観察から見えて来るもの-と題して、手賀沼の鳥を要約した内容の話をし、市民の方に手賀沼とその周辺地域の野鳥を知って頂きました。

今年も探鳥活動と啓蒙活動を当会の活動の両輪にし、手賀沼周辺が野鳥にとって少しでも住みよい環境、になるよう情報発信を続けたいと思います。よそへ移ってしまったカモが手賀沼に戻るためには、多くの人々の地道な活動が必要となります。是非この夢を実現したいと念じております。

今年も鳥を愛してやまない皆様にとって、益々健康で明るい活気に満ちた年でありますよう祈念いたします。

**市政功労者賞を受賞**：我孫子市制施行35周年記念の表彰式が11月26日(土)市民会館大ホールで行われ、当会は市政功労者賞(環境功労)を受賞した。会を代表して間野会長が出席、晴れの表彰状を受けた。この賞は、永年にわたり我孫子市と市民生活の向上に尽くした功績によるものである。手賀沼周辺の野鳥の観察を通して自然環境の保護に尽力された会員皆さんの努力と情熱の賜物である。その活動が地域社会の環境保全にも役立っている当会の歴史に誇りをもちたい。(事務局 榎本)

## 行 事 案 内

### 波 崎 探 鳥 会 (再掲)

期 日 1月3日(火) 雨天中止  
 集 合 我孫子市役所 午前8時  
 持 参 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可能)  
 案 内 海鳥とワシ、タカ(昨年はハジロカイツブリ、ウミウ、ヒメウ、ミコアイサ、ノスリ、チュウヒ等51種)  
 交 通 自家用車分乗、便乗者は一人1,500円を当日運転者にお渡しください。申込の際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。  
 申 込 猪爪敏夫まで  
 270-1143 我孫子市天王台5-13-6  
 Tel/Fax 04-7186-5075  
 担 当 猪爪

集 合 我孫子市役所 午前9時  
 案 内 平成18年最初の定例探鳥会です。カモ類が沢山見られると良いですね。その他タゲリやワシ・タカにも期待しましょう。  
 解 散 正午  
 担 当 北原、飯島、小林(寿)、桑森、中野、松田、野口(紀)

### 2月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 2月12日(日) 雨天中止  
 集 合 我孫子市役所 午前9時  
 案 内 手賀沼の水鳥が一番多く見られ、カモ類のカップルが出来はじめる時期です。また、綺麗なオスの求愛ディスプレイを見ることが楽しみなこの時期です。  
 解 散 正午  
 担 当 飯島、北原、小林(寿)、桑森、中野、松田、野口(紀)

### 1月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 1月8日(日) 雨天中止

## 井頭公園探鳥会

期 日 1月29日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子駅北口 午前8時  
持 参 防寒具、弁当(途中購入可)  
案 内 水辺の鳥と里山の鳥(昨年はミコア  
イサ、タゲリ、ルリビタキ、ミヤマ  
ホオジロ、ベニマシコ等47種)  
交 通 今井観光バス  
費 用 2,500円(バス代等)  
申 込 猪爪敏夫まで・1月25日締切  
270-1143  
我孫子市天王台5-13-16  
Tel/Fax 04-7186-5075  
担 当 猪爪、染谷

## 山中湖探鳥会

期 日 2月25日(土)、26日(日)  
集 合 我孫子駅北口 午前8時  
持 参 観察用具、防寒具、滑り止めの効く  
履物、雨具、洗面用具、常備薬  
宿 泊 ペンション「くりの木の下」  
山梨県山中湖 Tel 0555-62-1026  
費 用 22,000円(交通費、宿泊代、保険)  
案 内 冬の山中湖の山の鳥、湖の鳥を観察。  
レンジャクに期待しましょう。  
交 通 今井観光バス  
申 込 小玉まで 定員20名  
申込開始 1月5日  
Tel/Fax 04-7139-8260  
担 当 小玉、飯泉、鈴木

## 市民手賀沼探鳥会

期 日 1月22日(日) 小雨実施  
集 合 手賀沼親水広場 午前9時  
案 内 当会と我孫子市環境レンジャーと  
の共催の探鳥会です。一般市民と一  
緒に手賀沼遊歩道を歩いての探鳥  
会です。いつもの定例探鳥会と違っ

た楽しみが出来ます。1月は手賀沼  
周辺で最も多く野鳥が観察される  
時期です。昨年も47種の野鳥と5  
種の外来種が観察できました。鳥好  
きの仲間を増やす絶好の機会です。  
会員の皆様の大勢の参加をお待ち  
しております。

担 当 間野、染谷、佐々木

## ダイケアクラブの野鳥観察会

我孫子市福祉総合相談室から「ダイケアクラ  
ブ」(あびでい)が行う野鳥観察会のお手伝  
いを依頼されました。「あびでい」は同じ病  
を持った人たちが集って、話し合いやレクリエ  
ーションなどをしたりして、社会参加を目指  
すものです。前回(一昨年)の観察会が好評  
で、皆さん楽しみにされているそうです。  
参加者は10人程度の見込みですが、当日お  
手伝い頂ける会員は10時までに集合場所へ  
お越し願います。

日 時: 1月25日(水)  
午前10時10分~11時15分  
雨天の場合は中止し、2月22日  
(水)に延期します。  
集 合 アビスタ第2学習室(2F)  
コ ー ス 手賀沼公園 若松遊歩道(行けると  
ころまで)  
担 当 島崎、染谷

## 1月幹事会

日 時 1月8日(日) 13:30~16:00  
場 所 水の館 3F 研修室  
議 題 H18年上期 行事予定  
会報189号記載記事について  
第3四半期会計報告  
報告事項(JBF実行委員会反省  
等)  
その他 議題提出する場合は事務  
局に連絡ください)

# ヨシゴイよ、どこへ

飯泉 仁

ヨシゴイ( *Ixobrychus sineniss* )が手賀沼探鳥会で観察する頻度が年々減ってきています。その個体数の推移を整理し、手賀沼で起こっていることとの関係を報告します。

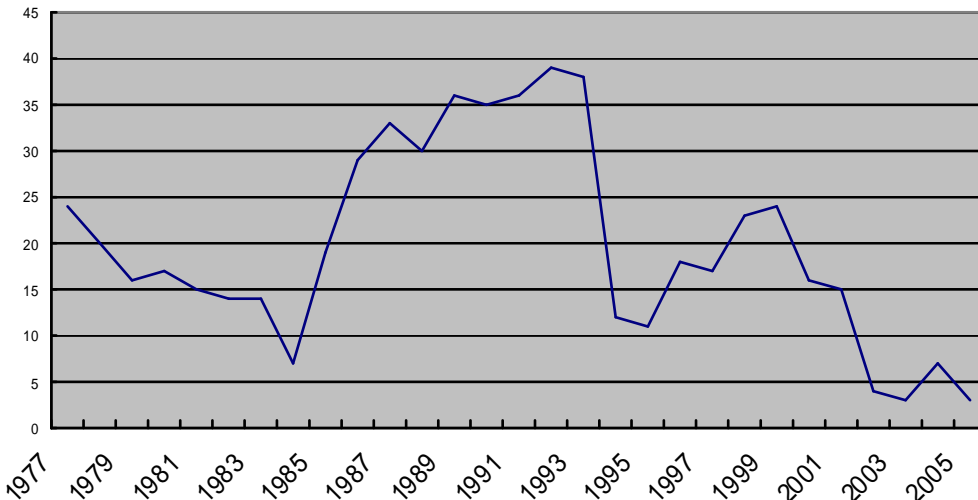
## 1. ヨシゴイについて

ヨシゴイは、高野(1985)が報告しているように、ヨシ、マコモ、ガマ類などの背の高い単子葉植物が茂ったところに生息し、ヨシの茎を足指でつかみ茎から茎へ巧みに伝い歩き、水の中から草がはえているところを好んで営巣する鳥類です。産卵期は、5~8月で巣立ちまでの期間は約3週間程度とされています。

## 2. 手賀沼水鳥調査の結果から

下記は、1977年から2005年7月までの手賀沼水鳥調査で記録したヨシゴイの個体数の推移です。年総個体数が最も多かったのは1992年の39羽、最も少なかったのは2003年の3羽でした。個体数の傾向は、変動を繰り返しながら減少傾向にあります。

ヨシゴイ個体数



## 3. 手賀沼とその沿岸の変貌・変化

1977年以前は、手賀沼の周囲のヨシ原はあまり変化がありませんでしたが、1977年から1984年にかけては、当時の沼南町(現 柏市)で遊歩道工事が行われたこと、2000年に北千葉導水路完成による利根川の水流入によって手賀沼の水量が大きく増加したという変化がありました。これらの変化が如実にヨシゴイの生息に影響を与えていることが個体数の推移を整理してみるとわかります。

1977年から1984年にかけての年総個体数の減少は、ヨシなどの背の高い単子葉植物と沿岸の遊歩道整備によって人間と距離が近くなったことでそれ以前と比べて安心して営巣することができなくなったものと推察できます。

また、2000年以降の減少は、北千葉導水路完成に伴う沼への利根川の水流入によって夏場の沼の水の高さが上がり、営巣環境であるヨシ原に影響を与え営巣環境を奪ったことによる

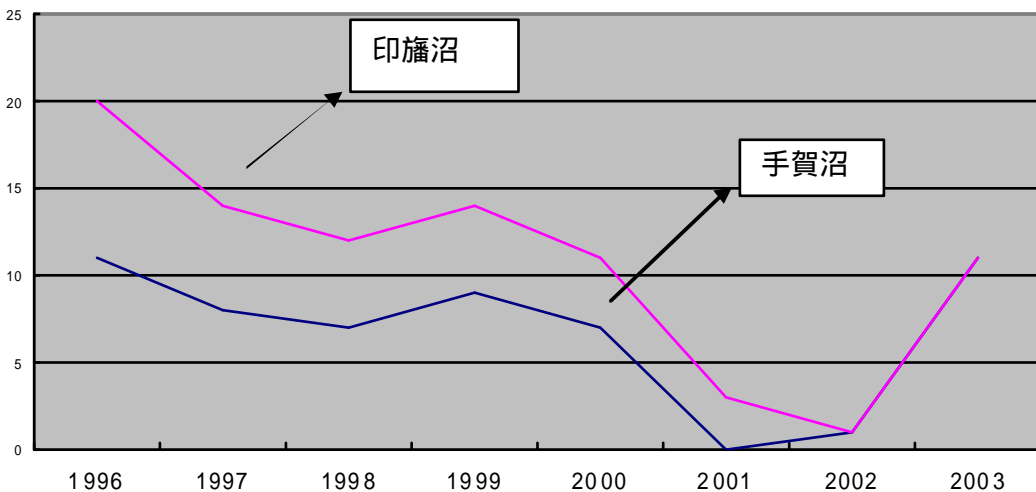
ものと推察することができます。

さらに、NIRA(1988)が報告しているように、手賀沼では1980年代以降で水岸のヨシ原の自然環境の貧弱化が進行していることと相まってヨシゴイの個体数の減少の一因となっているものと整理することができます。

#### 4. 印旛沼北部調整池の個体数と比較してみると

千葉県野鳥の会が県内の鳥類の調査結果を整理し、CD-Rに収録したものを2005年1月に報告しています。このデータからヨシゴイの8月の個体数と手賀沼の個体数を整理してみると下記のようになります。尚、千葉県野鳥の会のデータは、1996年以降は8月の個体数の結果が整理されていますが、それ以前は9月の個体数データであるためにヨシゴイの個体数の評価には不適切なために1996年～2003年のデータを引用しました。

8月のヨシゴイ個体数



1996年から2002年間の印旛沼北部調整池と手賀沼のヨシゴイの月総個体数は、ほぼ同様の動きを示しています。しかし、手賀沼では2002年、2003年と記録できておらず、2003年に個体数が増加した印旛沼北部調整池の傾向とあきらかに違いがあります。明らかに手賀沼に生息していたヨシゴイの個体数の減少には、固有の問題があるとみて差し支えないと推察できます。

#### 5. 全国的・県内でのヨシゴイの動向

環境省(2002)が報告している日本産鳥類の絶滅に関する報告では、生息条件が著しく悪化、捕獲・採取圧にさらされている、生息条件が悪化している鳥類の中にはヨシゴイは報告されていません。しかし、千葉県(2001)が県内の動植物の動向についての報告の中では、ヨシゴイは「最重要保護生物」と区分され、個体数が極めて少なく、環境変化の危機にあり、放置すれば絶滅又はそれに近い状態にあると警告しています。

千葉県内でヨシゴイの生息が脅かされている状況の中では、手賀沼をはじめとする湖沼の沿岸のヨシ原の保全と静寂さの確保を欠かせないものとなっています。

(引用)

高野伸二 監修. 1985. カラー名鑑 日本の野鳥. p 40. 山と溪谷社.

NIRA. 1988. 手賀沼 1990年代の課題. p 84. 総合研究開発機構助成研究.

千葉県. 2001. 千葉県の保護上重要に野生生物. p 131.

環境省 編. 2002. 改訂 日本の絶滅のおそれのある野生生物. p 278.

## 行 事 報 告

### 10 月手賀沼探鳥会とカウント

10月9日開催予定の手賀沼探鳥会は当日の朝 25名近くの会員の方が集まりましたが、前夜からの雨が止まないため中止としました。

<カウント班> 飯泉仁、飯泉久美子

10月9日雨天中止に伴い10月16日順延実施 実施時間：13:00～15:00

天候：曇りのち小雨、気温 19

調査種	上 沼	下 沼	合 計
カイツリ	1	9	10
カウ	20	143	163
ゴイサギ	5	1	6
ダイサギ	4	32	36
コサギ	6	11	17
アオサギ	1	10	11
コブハクチョウ	2	5	7
マガモ	1	8	9
カルガモ	23	64	87
コガモ	2	19	21
オナガガモ	0	5	5
ホシハジロ	0	1	1
ユリシギ	1	12	13
合 計	66	320	386

### 11 月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2005年11月13日 9:00～12:00

晴れ・無風 気温 19

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、ミサゴ、オオタカ、チョウゲンボウ、バン、オオバン、タゲリ、イソシギ、

タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 50種

<探鳥班> 柴本三弘 柴本法子、長谷川行廣、村瀬和則、佐々木隆、桑森亮、染谷迪夫、鳩川堯、山田哲生、小林寿美子、諏訪哲夫、大久保陸夫、北原建郎、榎本右、吉田隆行、飯島博、中野久夫、間野吉幸、小川克子、松本勝英、松本葉子、川村美智子、川村美恵子、片桐邦夫、谷山晴男、川田光男、類地佑子、山本貞江、井上正、松田幸保、木村稔、宮下三禮、鈴木静治、野口隆也、堀口勝、橋本清、西巻実、小玉文夫、武藤康之、野口紀子、野口紀恵、田丸喜昭、島崎純造、猪爪敏夫、玉井修一郎、渡辺政一、谷沢幸次、佐藤弘美、岩田孝之、八澤久康 参加者 50名

<カウント班> 飯泉仁、飯泉久美子

調査種	上 沼	下 沼	合 計
カイツリ	9	15	24
カンムリカイツリ	2	6	8
カウ	49	172	221
ダイサギ	5	3	8
チュウサギ	0	1	1
コサギ	7	17	24
アオサギ	4	7	11
コブハクチョウ	3	8	11
マガモ	0	37	37
カルガモ	5	32	37
コガモ	0	6	6
ヒドリガモ	2	206	208
アメリカヒドリ	0	1	1
オナガガモ	0	86	86
ホシハジロ	0	9	9
スズガモ	0	15	15
ミコアイサ	0	1	1

オバン	2	33	35
タゲリ	0	11	11
コリヅメ	5	27	32
セグロヅメ	1	1	2
合計	94	694	788

## 伊豆沼・蕪栗沼 探鳥会

### 圧巻、ガンの飛立ち

桑森 亮

11月26,27日、14名の皆さんと初めてのガン探鳥会に参加しました。26日早朝、6時15分に予定通り出発、先輩諸氏の話しに聞く落雁に思いを馳せつつ一路伊豆沼へ。昼過ぎには伊豆沼サンクチュアリーセンター到着。近くの池ではカモ類に加え、マガン4羽が陸に上がり昼寝の様子で出迎えてくれ、先ずはお初のマガンをカメラに収める。広々とした水田地帯をバスが走り始めると、ガンの群れが田んぼで餌を採っているの見える。少し離れてバスを降りると早速全員で観察。標識を首に巻いたガンもいる。マガン以外にサカツラガンはいないかと探すが、何しろ数が多く容易ではない。すると、遠くの田んぼから数千羽のガンが一斉に飛立ち、ウワッと思わず声上がる。移動のバスの中から水田のあちらこちらで採餌中のオオハクチョウも見える。

伊豆沼の湖岸でカモ類を見た後は蕪栗沼へ。日が暮れる前には駐車場に着き、水路沿いに葦原の小道を歩き探鳥ポイントに向う。沼の北端辺りに来るとオオヒシクイが姿を見せ、先に進むとハクチョウ、ヒシクイ、マガンが水面やマコモ群生地で休んでいて、早くもその数に驚く。ガンとヒシクイと一緒にいて大きさや違いが良くわかる。ガンが罅入りするまで周辺を観察すると、葦原にチュウヒが現れたり、沼ではヘラサギが1羽混じっていたり我々を楽しませてくれる。

夕暮れ近くになるとガンやハクチョウが少しずつ帰ってきて、直ぐ真上を飛んでいく。日が沈む頃にはガンの大群が群雲の如く遠くに現れたかと思うと、夕日をバックにウンカが舞うように飛び交い、次々と水面や湿地帯に下りていく。落雁というようにヒラヒラ

と水面に落ちると聞いていたが、以外にスーッと滑らかに着水する。小一時間もすると沼の奥はガンで埋まり、数千か数万かその数に圧倒される。

翌朝は日の出前には再び蕪栗沼へ。幹事の木村さんによると今回は蕪栗にこだわるとの言。未だ薄暗い中を沼に近づくにつれグワグワグワとガンの鳴き声が大きくなる。目を覚まして飛び立ち前の掛け声なのか？夜が明けはじめると第1群、2群と飛び立ち、一部は再び沼に舞い降りつつ、徐々に群れをなして四方八方に水田へ出かけていく。日の出から時間が過ぎると水面の群が動く気配がしはじめ、ザワザワ、ザザーッと羽音がして大群が一斉に飛立つ。数千のガンが視界を覆い尽くし、まさに圧巻で感動を与えてくれる。

主目的のガンの飛立ちを満喫した後は、帰途に奥松島の野蒜海岸に立ち寄り探鳥。海ではホオジロガモやカワアイサ、近くの池では数種類のカモの群れが、上空にはタカ類が見られるなど、思いのほかの鳥果でした。

数万のガンやヒシクイ、ハクチョウが無事に越冬し、春にはシベリアの地に帰れるようお願いしつつ、2日間の楽しい探鳥会を企画していただいた幹事さんに感謝し報告とします。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ヘラサギ、マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ミサゴ、トビ、オオタカ、ノスリ、チュウヒ、キジ、オオバン、イソシギ、オオセグロカモメ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 計52種(帰路の奥松島を含む)

<参加者> 清岡万紀子、小林秀美、井上正、大久保陸男、諏訪哲夫、中野久夫、西巻実、北原建男、桑森亮、柴本三弘、柴本法子、佐々木隆、松田幸保、木村稔 参加者14名

## JB F 2005の報告

ジャパンバードフェスティバル2005が11月5日(土)、6日(日)手賀沼公園、親水広場で開催されました。出展団体数115団体、開催中の来場者は延べ56,000人でした(JBF実行委員会)。当会も実行委員会の一員として下記のイベントに参加いたしました。お手伝い頂いた会員の皆さんにお礼申し上げます。参加したイベントの状況を報告いたします。

### 【手賀沼公園会場】

#### - ブース1 -

「紙芝居=おかえりなさい、つばめさん」の上演。

子供向けのイベントとしてツバメのわたりとスズメのお話を企画。2日間にわたって延べ20回位上演、観客200人以上。紙芝居の作者 首藤佑吉(当会会員)、作画 森元夏木(鳥博友の会会員)

「野鳥クイズ」

ブースを訪れた人や紙芝居を見た人達に10問100点満点の野鳥クイズをしてもらった。満点賞として会員手作りの鳥のミニチアを贈呈した。紙芝居を見た人は満点が多く、最後は鳥のミニチアが足りなくなるほどであった。クイズ回答者には全員に鳥の写真カードとアメを景品として出した。今回は2日間で298人の方がクイズに参加した。

「手賀沼を取り巻く水鳥の危機的状況」

水鳥の減少傾向をグラフを使ってパネル展示で説明

#### - ブース2 -

「庭に鳥を呼ぶ」

鳥の好む木の実や草の実の実物標本50種を陳列した。ブースを訪れた人はよくこんなに集めましたね!と感心していた。

「パネル展示」

庭にくる鳥の写真、エサ台の作り方、実のなる木を植えよう

### 【親水広場会場】

#### - 定点バードウォッチング(噴水前) -

カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、チュウヒ、ミサゴ、オオタカ、カンムリカイツブリ、バン、オオバン、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、コゲラ、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、シジュウカラ、エナガ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス計34種  
外来種 カナダガン、バリケン、カワラバト、シナガチョウ 計4種

#### - 船上バードウォッチング -

遊覧船を使って手賀沼を周遊する探鳥会、一周の所要時間は約1時間。5便実施し、乗船人員197名。乗船記念として鳥の写真カードを全員に配布した。

### 行事参加会員

11月4日(金)ブース設営、レセプション。11月5日(土)、6日(日)のイベント実施に述べ87名の会員が参加されました。

<参加者> 小玉文夫、北原建郎、佐々木隆、木村稔、中野久雄、諏訪哲夫、猪爪敏夫、松田幸保、宮下三禮、小林寿美子、野口紀子、野口紀恵、野口幸子、島崎純造、間野吉幸、西巻実、榎本右、山本貞江、中西榮子、飯泉仁、飯泉久美子、鈴木静治、柴本法子、桑森亮、田丸喜昭、田丸メリールイス、大久保陸夫、武藤康之、村瀬和則、飯島博、谷山晴男、染谷迪夫、井上正、岡本信夫、村上稔、吉田隆行、川上貢、小林秀美、類地佑子



## 奥日光探鳥会に参加して

(10月26日,27日)

吉田隆行

この企画を聞いたのは確か8月の定例探鳥会だったと思う。その時は実施予定の10月末では紅葉が終わっていると考えていたが来て見ると、何と、真っ盛り。お陰で朝からの霧も加わり道路は渋滞、我孫子駅を定刻の7時に出発した車4台、15名(内女性3名)は予定を遅れて略12時に赤沼茶屋へ着いた。バスで湯滝入口まで行き、急いでお昼。

湯川沿い自然研究路から探鳥開始。天気は予報通り良く、標高約1400メートルとは言え風も無いので寒くもない、汗をかかないほどの暖かさ。ミズナラ等の落ち葉の平坦な道をさくさくと、或いは木道を、紅葉黄葉を見ながら、散策気分で小田代原経由赤沼茶屋へ戻るコース。

探鳥は、カワガラスで始まる。私にとっては初撮影種。大きな図体ですばしこく動き回り、且つ黒ぼく、尾羽を高く上げるので、大きなミソサザイにも見える。川の中で水に潜って昆虫を食べるらしいのだが、結構岸や枝や倒木にも来る。写真も撮ったが、何故か満足なもの無し。ミソサザイ、アカゲラ、ヒガラ、ヤマガラ等も出る。

小田代原では男体山の前の白樺「日光の貴婦人」を見る。鳥を探すほどこれは難しくない。時折電気柵通る。悲しげな鳴き声は鹿で、雄が雌を求める時期とのこと。野生の鹿、雌雄を見ることは初体験、大きな野生動物としても初体験。かなり近づいても逃げない。

湯の湖湖畔の宿、ヒルサイドインに着いたのが5時くらいになっていたので周辺の探鳥は省かれ直ぐ温泉。250Gのステーキ付ディナーを日本酒「日光の貴婦人」で楽しみ、部屋を変えて9時まで懇談。

2日目、宿周辺の早朝探鳥は、同室者全員が寝過ごし、皆に遅れて出発。オオアカゲラを見損なったのは悔しい。

朝食後は雨にも負けず、湯の湖一周、光徳牧場一周の探鳥。狙いのキバシリは見られなかったが、アオゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、ゴジュウカラ等が出たと言う事。私にはシルエットを見るのがやっとであった。道の駅しもづまで鳥合せをやり解散。

このコースは運転者には全く酷だが探鳥、温泉、グルメ、紅葉、山、湖、滝等魅力満載。何故か7年前に守る会でやって以来ということだそう。これからは春の企画なども期待したい。(奥日光探鳥会は10月26日、27日有志による探鳥会として行いました：松田記)

<認めた鳥> アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、トビ、ノスリ、オオバン、キジバト、アオゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、カワガラス、ミソサザイ、ルリビタキ、ウグイス、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アオジ、アトリ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、計39種

<参加者> 西巻実、中野久夫、佐々木隆、小玉文夫、小玉信子、猪爪敏夫、宮下三禮、大久保陸夫、諏訪哲夫、吉田隆行、染谷迪夫、松田幸保、北原建郎、田丸メリールイス、田丸喜昭 参加者15名

## 梅村さんの絵

野口幸子

昨年来、病後のリハビリに励んでおられる梅村さん。春、その積極的な姿におあいして以来ご無沙汰していました。

10月27日～31日の市展（絵）に自分も出展していたので出かけたら、「ポプラの木」梅村康之という絵を見つけました。いい感じの絵でした。早速 TEL しました。奥様の話では、本人が言語治療の合間にお仲間と描く機会を得て、2、3日かかって完成されたもので、奥様もびっくりなさったとか。途中で梅村さんと TEL をかわってもらって、私のことも「ワカタ」と応答し、私が絵の話を沢山おしゃべりした後「又ね」といったら、はっきり「アリガトウ」といわれました。尚麻痺の軽い左手でかかれたそうです。梅村さんのこと心配されている会員の方にお知らせしたいと思いました。（H17.11.1）

## 驚き二つ

柴田五郎

### 「その1 タンチョウ岡山に永住?とは」

11月27日の朝日（新聞）に次のような記事があり、驚いた。

『岡山は、国の特別記念物タンチョウの飼育繁殖で知られる県だ。日本三大名園のひとつ、岡山後楽園で江戸時代からタンチョウが飼育されていたが、戦中、戦後の飼料不足で死滅する悲劇があった。だが、'56年、同園に中国から2羽が贈られたのを機に、人工孵化、増殖が積み重ねられて、現在65羽になっている。タンチョウは北海道で給飼場などで千羽前後が確認されているが、飼育個体数では、岡山県が全国最多を誇る。今後は100羽を目標とし、放し飼いやも考えている。現在飼育カ所は4ヶ所……』

今までタンチョウといえば、住み家は北海道とばかり思っていたのに、人工飼育とはいえ、北海道より遥か南方の岡山に、こんなに長いタンチョウの歴史があるとは、大きな驚きである。

### 「その2 水鳥の激滅は手賀沼だけではなさそう」

これも朝日であるが、11月26日、次のような記事が載った。

『東京からカモ激滅 「東京の池や川に飛来するカモが年々減っている。上野不忍池では、90年代初めまで8,000羽を越えていたが、最近では2,000羽程度だ。明治神宮や世田谷区内の池なども、めっきりさびしくなった。原因は何か、日本野鳥の会東京支部は27日にシンポジウムを開くと共に調査に乗り出す……』

当会では前から手賀沼の鳥を調査記録し、昨年11月にその調査報告書の第二部「手賀沼の鳥」を発売し、これまでの状況を詳細に記しているが、時に11月23日、会場は水の館、間野会長の「手賀沼周辺の鳥たちの現状」と題する講演があったが、手賀沼の鳥も激滅、オオバンなども減少著しく、「我孫子の鳥」もあやしくなったと、深刻な思いを新たにされた次第である。

このような現状は、全国的にはどうなのか是非承知したいものだ。（H17.12.2）

## 事務局便り

### これまでの当会の受賞歴

今回、我孫子市施行 35 周年記念の市制功労者賞の受賞に際しこれまでの当会の受賞歴を取りまとめました。

- 1982 年 11 月 感謝状(千葉県東葛飾地区社会教育連絡協議会)
- 1985 年 6 月 千葉県環境賞 高橋敏夫氏受賞
- 1986 年 5 月 表彰(日本鳥類保護連盟会長)
- 1989 年 6 月 表彰(環境庁長官) 高橋敏夫氏受賞
- 1995 年 4 月 生活文化賞
- 1995 年 12 月 ちば環境文化賞(千葉県)
- 1998 年 6 月 平成 10 年度野生生物保護功労者賞
- 2003 年 6 月 表彰(地域環境保全功労者 環境省)
- 2005 年 11 月 我孫子市制施行 35 周年記念市政功労者賞「環境功労」

### 地域活動インターンシッププログラム体験活動の受け入れ

H17 年 11 月の定例探鳥会に我孫子市布佐平和台在住の片桐洋さんが参加されました。(事務局 染谷)

### 環境レンジャー主催の公開学習会で間野会長が講演

水の館で開かれた我孫子市環境レンジャー主催の公開学習会(11月23日(水))で間野吉幸会長が「手賀沼周辺の鳥たちの現状 30 年以上の観察から見えて来るもの」と題して講演。午後 2 時から約 2 時間、1 部は観察調査データの解説、2 部は会員が撮影した手賀沼で注目すべき減少を示している種類の鳥や観察記録が少ない鳥たちをスライドで紹介し、個体数減少の実態を訴えた。講演の後、参会者から熱心な質問が続き、手賀沼周辺の環境の変化と鳥の数が減っている現実に高い関心を示していた。(事務局 榎本)

### 手賀沼流域フォーラムに出展

親水広場で開催の第 9 回「手賀沼流域フ

ォーラム(10月1日(土))」(主催:美しい手賀沼を愛する市民の会、山階鳥類研究所、手賀沼浄化事業連絡会、我孫子市、柏市)に参加。長期にわたり手賀沼の水鳥の固体観察調査を行ってきた当会は、発表の機会ある毎に、その推移の実態を多くの人に知ってもらいたいという趣旨でパネル展示を行った。当会他パネル展示参加市民団体は 15。イベントとして釣りマナー教室、手賀沼船上見学、クイズラリーなどが行われた。当日は間野吉幸、宮下三禮、榎本右の 3 人が担当。(事務局 榎本)

### 手賀沼クリーン作戦

H17 年 10 月 9 日 午後実施予定であったが、雨天のため中止(事務局 染谷)

### 手賀沼統一グリーンデイに参加

美手連(美しい手賀沼を愛する市民の連合会)の一員である当会は同じ日に柏と我孫子で一斉に手賀沼周辺を清掃する行事に参加しました。

日時 H17 年 10 月 22 日(土)

清掃場所 手賀沼沿いの遊歩道 文学の広場から滝前ひろばまで

参加団体 15 団体、参加延べ人員 40 名、当会から 6 人が参加。

集めたゴミ: 燃えるゴミ、燃えないゴミ 合計 90k g (事務局 染谷)

### 「市民活動フェア in あびこ 2006」に参加

2 月 4 日(土)、5 日(日)「アビスタ」で開催されるこのフェアに当会は始めて参加することになった。このフェアは今回で 5 回目となる。市民自治によるまちづくりを目指し、その一翼を担う市民活動を広く市民に知ってもらい、参加意識や支援者・理解者を増やすことを目的としている。参加は 60 団体で、まちづくり、環境、教育・文化、保険・福祉、スポーツ、全体企画の 6 分科会に分かれ、60 団体は全て 2 日間、展示で参加するほか分科会ごとに企画を発表する。当会は環境分科会の企画として、5 日午後 3 時から「ミニホール」で手賀沼の減少している鳥たちをスライドで紹介し、野間会長の解説を通して、環境の変化と減少傾向にある手賀沼の野鳥

の実態を来場者に訴える予定。(事務局 榎本)

## ご寄付

間野さんからご寄付を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。(事務局 北原)

## 新会員紹介

山田 哲生(我孫子市若松)

## 投稿のお願い

会員の皆さんからの探鳥記、楽しい話題、スケッチ、写真等の投稿をお待ちしています。投稿先 小玉文夫まで

270-1144 我孫子市東我孫子 1 - 2 8 - 8

Fax 04 - 7139 - 8260

## 鳥 だ よ り

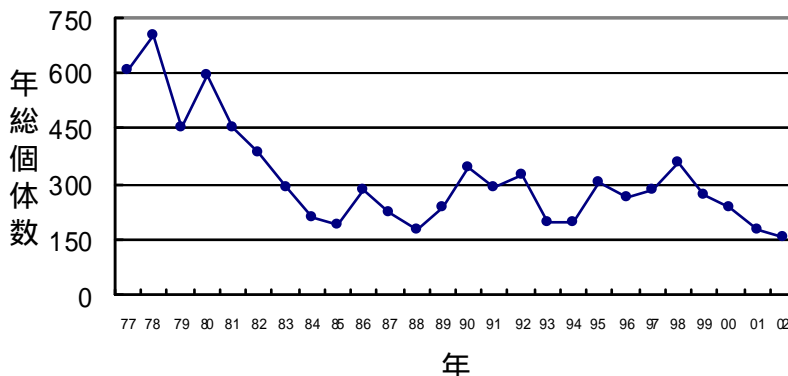
- |   |  |
|---|--|
| 09.21 [手賀] 材効(1)突き出た樹上<br>志賀鉄雄            | 中野久夫・金成典知<br>09.27 [鷲野谷新田] ちょうゲンボウ(1)カラス<br>に追われる 志賀鉄雄 |
| 09.22 [あけぼの山公園] ツト(1)桜の木上<br>桑森 亮         | 09.27 [北新田] 柿(3)越流堤池で<br>中野久夫・金成典知                     |
| 09.22 [東中新宿] サバ(1)9:00頃自宅上空<br>飯泉久美子      | 09.29 [北新田] 刈(1)杭上<br>中野久夫・金成典知                        |
| 09.23 [北新田] ちょう(30)水路、田んぼ<br>桑森 亮         | 09.30 [弁天下] ヒ(3)畑上<br>中野久夫・金成典知                        |
| 09.23 [北新田] ヒ(1)2号水路でサギの<br>群れを襲うが失敗 桑森 亮 | 09.30 [弁天下] 竹(2)2号排水路で<br>中野久夫・金成典知                    |
| 09.23 [北新田] ちょう(1)飛翔<br>桑森 亮              | 09.30 [弁天下] 竹(2)2号排水路で<br>中野久夫・金成典知                    |
| 09.23 [北新田] 竹(1)2号水路から飛<br>立ち 桑森 亮        | 09.30 [北新田] オシ(1)稲刈り田から<br>飛立ち 中野久夫・金成典知               |
| 09.23 [北新田] ヒ(5)高鳴き 桑森 亮                  | 10.02 [布佐] ヒ(1)物色行動<br>松田幸保                            |
| 09.23 [鷲野谷新田] ヒ(3)水路脇草木<br>に 志賀鉄雄         | 10.07 [あけぼの山公園] ヒ(3)1、2<br>木の实採餌 中野久夫                  |
| 09.25 [若白毛] ヒ(1)(林の影に)飛翔<br>志賀鉄雄          | 10.09 [岡発戸新田] ちょう(1)物色飛翔<br>大久保陸夫                      |
| 09.25 [泉村新田] ヒ(4)幼鳥<br>飯泉 仁・久美子           | 10.10 [北新田] ミコ(1)田んぼ上を西へ飛<br>翔 中野久夫                    |
| 09.25 [染井入落] 竹(2)下沼:鳴きなが<br>ら通過 飯泉 仁・久美子  | 10.11 [岡発戸] ヒ(1)物色飛翔<br>大久保陸夫                          |
| 09.26 [あけぼの山公園] ヒ(複数)と<br>きに空中採餌 西巻 実     | 10.12 [大津ヶ丘一丁目] ア(1)木に止ま<br>る 志賀鉄雄                     |
| 09.26 [北新田] 材効(1)幼鳥、畦上<br>中野久夫・金成典知       | 10.12 [箕輪新田] 材効(1)飛翔 志賀鉄雄                              |
| 09.26 [北新田] ヒ(8)3羽排水路土手<br>で、5羽利根川堤防で     | 10.13 [染井入新田先手賀沼] ツト(2)中<br>州で採餌 中野久夫                  |
|   | 10.14 [手賀沼上沼] ミコ(1)魚を捕食、杭<br>上で 志賀鉄雄                   |

10.14	[大井]	材効(1)飛翔	志賀鉄雄	11.05	[高野山新田]	材効(1)9:00~16:00、 J B F 2005	飯泉 仁・久美子
10.14	[大井新田]	シヨビ`舛(1)	志賀鉄雄	11.07	[北新田]	如ジ` (1)草道の水溜りで水 浴び	中野久夫
10.15	[片山新田]	ヲウケ`ホ`ウ(3)飛翔	桑森 亮	11.08	[布瀬新田]	ヲウケ`ホ`ウ(2)電線に	志賀鉄雄
10.16	[手賀沼]	ヲウケ`ホ`ウ(1)上沼	飯泉 仁・久美子	11.09	[手賀新田]	ヲウケ`ホ`ウ(1)棒上に	志賀鉄雄
10.23	[岡発戸新田先手賀沼]	ミダ` (1)魚を 採餌	飯泉 仁・久美子	11.10	[ゆうゆう公園先利根川]	ミダ` (1)休 憩	諏訪哲夫
10.23	[戸張先手賀沼]	ミダ` (1)魚を採餌	飯泉 仁・久美子	11.11	[手賀沼]	ハブ`サ(1)上沼、鉄塔に止ま る	志賀鉄雄
10.25	[手賀大橋]	ノリ(1)下沼へ	志賀鉄雄	11.13	[北新田]	材効(1)幼鳥、電柱上	中野久夫・金成典知
10.27	[岩井新田]	ヲウケ`ホ`ウ(1)電線に止 まる	志賀鉄雄	11.13	[手賀沼]	ヲウケ` (1)下沼	飯泉 仁・久美子
10.27	[東中新宿]	ヲウケ`ホ`ウ(1)6:30 自宅 上空を小鳥を追いかけて通過していった	飯泉 仁	11.13	[片山新田の葦原]	ベ`ニシコ(1)	飯泉 仁・久美子
10.28	[染井新田]	ヲウケ`ホ`ウ(1)飛翔	志賀鉄雄	11.13	[片山新田先 手賀沼]	ア`刈`止`ト`リ(1) 雄 1、下沼	飯泉 仁・久美子
10.28	[手賀沼]	オ`バ`ユ`ソ(1)下沼	志賀鉄雄	11.14	[北新田]	エ`ワ`キギ` (1)カワバトと一緒 に電柱に 20分とまわって飛去	中野久夫
10.29	[水道橋]	刈(3)水田	桑森 亮	11.16	[手賀川]	ヲ`サ` (1)	志賀鉄雄
10.30	[岡発戸新田]	ヲウケ`ホ`ウ(1)物色飛 翔	大久保陸夫	11.17	[ゆうゆう公園先利根川]	ハブ`サ(2) 休息	諏訪哲夫他観察会参加者
10.30	[手賀沼]	ヒ` (1)飛翔、上沼	志賀鉄雄	11.18	[北新田]	ヲ`ユ` (1)物色飛翔	中野久夫・金成典知
10.31	[大井新田]	ノリ(1)	志賀鉄雄	<b>今回の観察者の総投稿件数</b>			
11.01	[手賀川]	ミダ` (1)下沼方向へ	志賀鉄雄	赤尾	完	9	
11.01	[手賀新田]	刈(3)飛翔	志賀鉄雄	飯泉久美子		8	
11.01	[手賀の丘公園]	ヤ`ガ`ヲ(1)	志賀鉄雄	飯泉 仁		32	
11.01	[東中新宿]	ツ`ミ(1)7:03頃上空 を鳴きながら通過	飯泉 仁	飯泉 仁・久美子		201	
11.03	[泉新田]	ハブ`サ(1)群れより離れた ドバト追うも失敗	志賀鉄雄	大久保陸夫		12	
11.03	[手賀]	ヲ`サ` (1)谷津田より飛び立 ち	志賀鉄雄	北原 建郎		1	
11.03	[手賀新田]	材効(1)杭上	志賀鉄雄	桑森 亮		31	
11.04	[大室・水辺公園]	材効(1)草道で	中野久夫	志賀 鉄雄		90	
11.05	[手賀新田]	ノリ(1)田に降り捕食	志賀鉄雄	首藤 佑吉		3	
11.05	[高野山新田]	ミダ` (1)9:00~16:00、 J B F 2005	飯泉 仁・久美子	首藤佑吉・恵美子		1	
				諏訪 哲夫		4	
				中西 栄子		2	
				中野 久夫		39	
				中野久夫・金成典知		51	
				西巻 実		8	
				松田 幸保		2	
				<b>総計</b>		<b>494</b>	

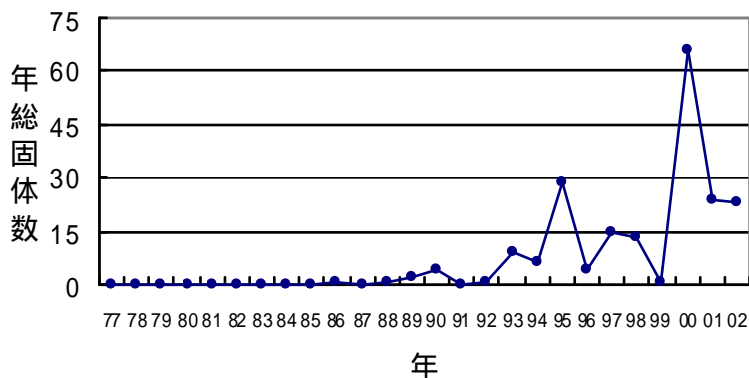
紙面の都合上、皆様から寄せられた鳥だよりの一部を掲載させていただきました。なお、ご報告いただいた鳥だよりは全てをデータベースとして収録させていただきました。

「手賀沼の水鳥」(我孫子野鳥を守る会：手賀沼の鳥 . 2004. より)

カイツブリの年総個体数の推移



ハジロカイツブリの年総個体数の推移



我孫子野鳥を守る会 会報 No188 2006年(1~2月号)

発行 2006年1月1日  
 発行人 間野吉幸 我孫子野鳥を守る会 会長  
 編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、宮下三禮  
 事務局 染谷迪夫 〒270-1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel 04-7182-3972  
 振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会  
 会費 年会費 2,000円(大学生、高校生 1,000円、中学生以下 500円、  
 家族会員 無料)